

# 外国語学部に於ける 新科目「教職実践演習」の取り組みについて

海老子 格行

## 1. はじめに

本学外国語学部は、平成 11 年度に開設し、この間、学科の名称変更もあったが、現在まで、中学校および高等学校の国語、英語、中国語の教員免許取得の教育課程を編成・実施してきた。変化の激しい今日の社会に於いて、自らの考えを持って、主体的に行動していく力が求められる。学校教育に於いて、逞しく生きる人間の基礎づくりが大切であり、それだけに、中学校、高等学校教員の使命は大きい。

本学教職課程は、生徒一人ひとりの良さや可能性を引き出し、生徒の実態に即し、創造的に、粘り強く教育課題に立ち向かう教師の資質養成を目標に取り組んできた。

この度、学外での学習体験活動、履修カルテの導入および「教育実習」をまとめながら、新設科目「教職実践演習」の取り組みを報告したい。

## 2. 学外での学習体験活動

### 2.1 恵庭市内中学校でのアシスタント・ティーチャー

外国語学部開設当初から恵庭市教育委員会および市内小・中学校の理解と協力によって、希望する 2, 3 年生の教職履修学生の多くが、恵庭市内の小・中学校でアシスタント・ティーチャーを体験してきている。この目的は、教育実習前、授業の進め方を学ぶこともあるが、学校現場を理解し、何よりも、子ども達との接し方を体験することである。例年 9 月から翌年 3 月迄週 1 回参加している。

この実施計画も定着し、学生の参加意欲も高まり、当初の目的の成果も見えてきていることから、現在は下記の内容により単位（2 単位）を認定・評価している。

- ① 60 時間以上の参加
- ② 出席簿・実績簿の記録内容
- ③ 研究報告書の提出
- ④ 報告会の発表内容
- ⑤ 教職担当教員の実習校視察内容

### 2.2 その他

- 教育実習前の 4 年生は、本学近くの中学校で、国語・英語に分かれて、授業参観を行っている。
- 北海道教育委員会主催石狩教育局実施の特殊学級や特別支援学校でのアシスタント・ティーチャーを体験している学生もいる。
- 恵庭市小・中学校合同教育研究集会に、教職課程履修の 3 年生は、研究授業を中心に参加した年もある。

## 3. 教職課程「履修カルテ」の導入

平成 22 年度以降入学する教職課程履修学生には、4 年生後期の、新設科目「教職実践演習」の必修に加え、「履修カルテ」が導入された。

「履修カルテ」は、学生自らが、自己の教職課程の履修状況を把握し、課題を明らかにしながら、自己評価などを記録し、教職課程を継続的に履修していく為のものである。

1年生から「履修カルテ」を所持することが望ましいと考えられるが、外国語学部では、履修学生人数がほぼ定まる2年生後期から、学生は、「履修カルテ」を記録・管理している。

## 「履修カルテ」の内容

- 履修カルテの記入・管理方法および注意事項
- 学生個人の情報
- 科目履修状況

教科に関する科目      教職に関する科目

授業科目名、履修の有無、授業担当教員名、成績、学んだこと・課題、指導教員の確認欄

- 各学年での自己課題と達成度（課題・まとめ・達成度評価）
- 自己評価シート

教員として求められる17の資質能力項目・指標・自己評価

- 教職指導教員との年2回（前期・後期）の面談内容
- 実習関連科目などの履修状況と反省・まとめ

教育実習      介護体験      アシスタント・ティーチャー      ボランティア活動      その他教育  
に関わる体験

## 4. 教育実習の取り組み

### 4.1 教育実習の意義

教育実習は、教職養成課程のまとめとして、教員に準じて学校に勤務し、教員の職務を理解しながら、学んできた教科指導、生徒指導のあり方を学校現場で学ぶ実習の場である。教職課程を履修している学生は、教育実習を通じて、学校組織の中で教育実習校の生徒と交わり、自己の教職に対する意志を確認し、教員の基本的な指導力を培う為、卒業迄の期間および将来にわたっての自己を高めていく課題を明らかにすることが大切である。本学外国語学部の「教育実習」履修の為の条件を満たしたほとんどの学生は、中学校、高等学校両方の免許取得希望であるので、4年生前期、中学校または高等学校で、3～4週間の教育実習を行っている。

### 4.2 教育実習に向けての事前指導

つぎのことを学生に特に求めてきている。

- 教育実習の機会を頂いた感謝の気持ちで、誠実に、全力で取り組む。
- 教材研究に十分な時間をとり、生徒が「分かる授業」「考える授業」の生徒主体の授業のあり方に取り組む。
- 学ぶ姿勢を続け、創意工夫し、授業改善に取り組む。

以上のことを基本姿勢にし、教育実習生としての心構えやマナーについて指導を徹底する。

教育実習の評価については、現在まで、学生の教育実習中の真摯な態度に、どの教育実習校からも、良い評価を頂いている。

### 4.3 教育実習の評価

つぎの内容によって、評価している。

#### ①教育実習校評価 (50 点)

#### ②教育実習日誌の記入内容 (10 点)

北海道私立大学・短期大学 教職課程研究連絡協議会 編 使用

#### ③教育実習計画書 (A3 用紙 6 枚) (10 点)

教育実習校の現況 教育実習の予定・内容

##### 〈教育実習の取り組み〉

実践内容・実践事項 (観察すべき領域・観点) として教育実習中、1 週間ごとに評価項目ごとに、記述する。

##### 教科 (学習) 指導

教材研究, 指導計画作成, 指導の実践, 反省によって教科の指導力を高める。

具体的な評価 5 項目 (省略)

##### 生徒指導

「生徒指導は生徒理解に始まり, 生徒理解に終わる」と言われるが, このことの意味, 具体的な内容や生徒理解の方法を学ぶ。 具体的な評価 4 項目 (省略)

##### 学級経営

日常の学級経営の具体的な関わりを学ぶ。 具体的な評価 4 項目 (省略)

##### 指導教師との連携

教育実習中は関係教師の指導助言を得て, 指導力向上に努める。 具体的な評価 3 項目 (省略)

#### ④レポート提出 (15 点)

(内容)

- ・生徒の特徴と傾向
- ・実習校の教育環境について (学校内外)
- ・生徒とどのように接したか
- ・学級会 (H・R) での生徒への連絡事項や指導で苦慮したことや生徒の反応
- ・授業参観で学んだこと
- ・授業で苦労し, 最も心掛けたこと
- ・学級会活動 (LHR), 道徳の時間
- ・教科外活動 (行事, 部活動など)
- ・教育実習が今後の自分に生きる点
- ・教育実習の取り組みの自己評価
- ・今後の課題 教師としての適性 (自己評価) など

上記の内容から選択する。(レポート 3000 字)

#### ⑤各自事前に設定したテーマについてのまとめ (10 点)

#### ⑥報告会のスピーチ内容 (5 点)

### 4.4 今後の課題

落ちこぼれ, 不登校, いじめ, 非行などは, 学校教育に深刻な影を落とし, これらの問題に対処する教師の資質が真剣に問われている。それだけに, これらの背景から教育実習のあり方が問われてきている。実践的に強い指導力を持った教師の養成が期待されていると考える。学生には, 教育実習中は, 生徒と接する多くの時間を心掛け, 生徒理解のあり方を体験的に学ぶように求めてきている。教職課程の中で教育実習をより重視し, 生徒のさまざまな課題に立ち向かう意識やその為の基礎的な知識や力を培うことに繋がる教育実習でなければならない。その為の教育内容および事前指導の改善や

充実が必要と考える。

## 5. 新科目「教職実践演習」の取り組み

### 5.1 「教職実践演習」の目的・意義

当科目は、教育職員免許法施行規則の一部改正により、平成 22 年度大学入学生（平成 26 年 3 月卒業生）から 4 年生後期に実施される必修科目である。

教職課程の授業科目で培われた資質・能力を高めると共に、教育実習で明らかになった課題を解決し、教職生活への円滑なスタートに資することを学習のねらいとする。その為に、学生同士の討議、課題に向けてのレポート作成、模擬授業、事例研究およびインターンシップなどを計画・実施し、教師の実践的な資質・能力の向上を目指す授業内容を構築する。

文部科学省に、平成 21 年度 15 回の授業項目（シラバス）を提出したが、4 年生前期迄の本学外国語学部の教職科目の授業内容を踏まえ、「教職実践演習」をつぎの通り、位置づけた。

### 5.2 本学（外国語学部）のねらい

「教職実践演習」は教師としての基本的な指導力を備え、問題解決に取り組む積極的な姿勢を育てていく為の授業である。

今日、学校教育現場では、さまざまな問題解決に挑む教師の気迫や実践的指導力が求められており、教師の資質能力は、単に教育や教科についての量的な知識だけではない。愛情を持って、生徒を指導する力や、生徒・父母・地域住民とのコミュニケーション能力が、求められる。

教育実習では、教材研究が中心になり、他の領域について、学び、体験する心の余裕を持てなかった学生が多く見られた。

それだけに、この授業で、一人ひとりの生徒を大切にできる教育に、目と心を向け、教科指導や生徒指導に、情熱を傾ける教師の資質を互いに高め合っていく為の授業の実施を目指す。

### 5.3 実施講義の内容

講義回数	内 容	講義回数	内 容
第 1 回	オリエンテーション 今日の教育課題と求められる教師像	第 7 回	事例研修会
第 2 回	教師の社会性について	第 8, 9 回	模擬授業の実施
第 3 回	学級経営の目標と組織づくり	第 10, 11, 12 回	中学校でのインターンシップ (3 日間)
第 4 回	学級経営のあり方	第 13, 14 回	学習・体験発表会
第 5 回	特別講義「教育に携わってきた私の人生」	第 15 回	まとめとポートフォリオの整理
第 6 回	自己実現を援助する指導のあり方		

\* 2 名の教員で授業を担当する

## 第1回 オリエンテーション

### 1. 「教職実践演習」学習の目的

- ①教師を目指す者として、教師力を身に付けたかどうかの確認
- ②不足している知識やスキルなどを補う。

教育実習の自己評価によって、履修カルテの記入整理と「4年次の課題」を再点検する。

### 2. 授業の基本方針と今後の授業の進め方

教員を目指す者としての資質向上の為の授業を展開しこの科目の充実が、外国語学部の教職課程の今後の方向性を示すことにも繋がると考える。

思いつきの考えでなく、次回の学習内容について調べ、考えをまとめて、授業に臨む。

今日の教育への理解やその内容をどう受け止め、課題に向かって、創造的に、そして具体的に、取り組んでいく意欲や姿勢をこの授業で求め、事前学習内容を基に、討議を中心にした授業を展開する。

2名の教員も討議に参加し、最後にそれぞれのテーマについて、まとめる。

#### ①事前学習のレポート

教員に事前提出 “ポートフォリオ” 編集係りにメールで送信

- ②司会者は、議事進行の仕方および討議の深まりについて、事前学習に努める。
- ③記録者は、討議や授業内容をまとめ提出する。
- ④今後の自分の学びや取組みでどう対応していくか（1分間スピーチ）

この授業は、皆で授業をつくり、まとめていくことを確認する。

### 3. 今日の教育課題と求められる教師像についてまとめる

- ①最も自分にとって、大切にしたいテーマを下記のテーマから一つ選択し、自己の考えていることを200字程度でまとめ、その要旨を2分以内で発表する（プリントは提出する）。

- 教師としての使命感
- 子どもの成長・発達についての理解の仕方
- 教育的愛情とは
- 教職の魅力
- 理想の教師像
- 教師の専門性
- 学校と家庭の関わり
- 開かれた学校と生徒の安全性
- 思いやりの心の育成
- 命の大切さ など

教職を目指す者として、それぞれのテーマについて、互いの考えを受け止めながら、望ましい教育観に基いた自己の考えを確かめる。

#### ②課題の提示（レポート A4 5枚 指定の期日迄提出）

下記の内容について、教育実習を土台にした考えやその後の取り組み

- 教師に求められる教養
- 生徒理解と人間関係構築
- 教科内容に関する知識・技術
- 授業づくりの力
- 課題を追求し、学び続ける意欲・態度

## 第2回 社会性を培い、どう教職員や保護者・地域との連携を図っていくか

### 討議内容

1. 教員（社会人）としての基本的な心構えや資質について、話し合う。
2. 保護者に、どう対応するか、保護者に対する対応の仕方を考え、大切なことをまとめる。
3. 地域との連携を図ることは、子ども達にとって、どのような教育的意義があるか意見交換を行う。  
また、地域との連携で気を付けることを考える。

## 第3回 学級経営の目標と組織づくり

学級経営は、学校及び学年の教育目標を具現化する機能を持った集団であり、生徒の学校生活を支える基軸になるものである。その学級が安定し、生徒と担任教師との信頼関係が築かれ、生徒同士の友情に満ちた学級は、生徒の心や行動が安定し、楽しく充実した学校生活を過ごすことの出来る環境である。

このような学級は、教師自身にとっても、意欲的に教育活動に取り組む精神的な力になる。教職に就いて2年目頃から担任を持つケースが考えられる。勤務校での地域や学校の実態および生徒達の現状を踏まえながら、学級づくりに向けての自己の構想を持ち、学級づくりに取り組む力が必要である。

その為、自分の学級づくりの思いや教育実習での体験を基に、学級経営についての意見交換を通じて、具体的な学級づくりについて学習を深めていく。

(展開)

事前に作成してきた学級経営および学級経営計画を発表し、学級経営計画の作り方および内容について討論する。

1. 学校目標、学年目標のねらい、および各分掌の学習指導、生徒指導の領域の内容を受けながら、どのような学級目標を設定するか。それらの上位目標との関わりからの目標の立て方を学ぶ。
2. 担任としての学級経営観を基に、月ごとや学期を節目とする年間の指導計画作成を学ぶ。
3. 生徒の主体的な活動を育てる。

学級運営委員会活動、係り・班活動（生活・文化・学習・進路・風紀など）の進め方を考える。

上記の内容について、各自具体的な計画書を作成する。発表・討議によって、理想の学級づくりを研究する。学級づくりは、教育実習前の科目「事前指導」で、取り上げているが、教育実習を終えて、教育実習期間の担当学級の取り組みも踏まえ、自分の理想とする学級づくりを構想し、組織的、計画的な担任業務を本時の学習内容とする。

## 第4回 学級経営のあり方

### 討議内容

1. 学級集団への所属感や連帯感をどう育てていくか
2. 集団生活に必要な秩序や規律を守る指導の進め方
3. 個々の生徒の特性をいかに理解するか
4. 生徒会活動との関わり
5. リーダーおよび中間リーダー層の養成など

## 第5回 特別講義 「教育に携わってきた私の人生」

講師 (現) 登別市文化・スポーツ振興理事長 長谷川政吉先生

中学校や北海道教育庁での教員の指導的立場や町教育長等の豊富な体験から、求められる教師についての講話

## 第6回 自己実現を援助する指導のあり方

学校生活で、さまざまな体験を積み重ね、集団活動の中で、自己を生かしていくことは、将来、生きがいを持って自己実現する力になっていく。自己の個性や特性を伸ばし、集団の中で社会性を育てることは、生徒指導の大きなねらいであり、最近の子ども達の現状からも、今日学校教育に課せられた重要な課題であると考え。その為の生徒指導力が、教師一人ひとりに求められるが、これらの教師の指導のあり方や体制づくりは、教職関係の履修科目の内容で、具体的に取扱われてきていない。

また教育実習期間でも、これらの十分な学びは期待出来ない。従って科目「教職実践演習」で下記の討議内容を取り上げていく。

### 討議内容

1. 生徒指導を生かした学業指導のあり方
2. 能力や適性および興味・関心に応じた進路指導の進め方
3. 学校生活に於ける生徒会、委員会活動、学級活動などの組織づくりと役割分担
4. 集団活動の中での一人ひとりを生かす指導のあり方
5. 集団生活でのルールや規範意識を育てる指導のあり方

自分の中学校・高校に於ける体験、教育実習期間で得た知識、参考書やインターネットなどで調査・研究した内容および自分の考えを基に上記1～5迄の内容について討議し、テーマについて学習する。

## 第7回 事例研究会

子どもの問題行動が多様であり、それぞれの子どもの問題の要因を正しく理解し、適切な指導・援助の方向性やそのための具体的な指導の方策を見出す力が必要である。これらの能力は、教師一人ひとりが、生徒の問題行動に触れ、指導・援助に努めていくことによって、指導力が培われる。

そして、教師集団で、指導方針や指導法について共通理解を深め、それぞれの具体的な子どもの実態に基づいた事例を研修することによって、個々の子どもを見る目や理解する力を高め合うことが、大切である。

このことから、個々の事例に応じた対応のあり方を仲間と共に考えていくことによって他の教師と協調して生徒指導に当たる意識や姿勢をこの講義で学び合う。

### 事例内容

事例について、互いの見方や考えを出し合い、複数の学生で、一つの事例を作成する。

- ①問題行動の主題
- ②当該生徒の問題傾向の概要
- ③家庭環境
- ④生育歴
- ⑤友人関係
- ⑥日々の学校生活
- ⑦部活動などの加入・活動
- ⑧性格
- ⑨学習成績
- ⑩出席状況
- ⑪その他

上記の内容をまとめ、問題行動の主題に即した指導の経過内容を、順を追ってまとめる。

事例の問題行動の主題は、同じような問題行動にならないように設定し、多様な問題行動を抱える

生徒の対応の仕方に目を向けて、それぞれの事例に応じた基礎的な考え方や指導のあり方を学ぶ。

#### 授業展開

1. 事例の提案者から資料に基づいて簡潔に発表（担任の立場で話す）
2. 参加学生は、発表を聞きながら問題点を把握する。
3. 質疑応答
4. 指導法について意見交換
5. 今後の指導方針や対応についてまとめる

学校現場での事例研究会は、現実の生徒の実例に基づいたものであるため、研修会終了後、資料を回収し、破棄するなり、資料の保管に細心の注意を払う。

#### 事例作成者

2名1組で作成する。事例作成者は、現在の指導の困難点、どのような事を本研修会の意見交換で求め、今後の指導の糸口を掴んでいきたいか明確にしていく。

#### 司会者

事前に事例内容を把握し、議事進行の方法、事例に関わる学習や資料の収集に努める。

校内の教師の指導の共通性や協力体制をまとめる事が出来る様、意識して議事進行に当たる。

#### 記録者

事例発表や発言に於いて、事実と推測の区別

問題点、対応の仕方等今後に繋がる様まとめる。

### 第8回・第9回 模擬授業

学生は、4年生の教育実習に向けて、科目「教科指導法」や教育実習直前の模擬授業に加えて、3学年当初から、自発的に仲間と学内で模擬授業に取り組んでいる。

一人ひとりの学生が、授業者となり、時には生徒役となり、互いの授業の評価を行い、指導方法の向上に向けて、学習を積み重ねている。今までの模擬授業や教育実習での授業を基に下記の内容を計画している。

#### 事前の準備

1. 科目「国語」・「英語」ごとに、1グループ3～4名で、教育実習での授業の課題を出し合いより良い授業展開や指導方法について検討する。特に生徒の学ぶことへの意欲を高め、「分かる授業」を研究する。
2. グループで、指導案の検討や教材を作成する。

#### 授業の実施

1. グループの代表が、他のグループを交えた授業での模擬授業を行う。（教科ごとに分けなくて2グループに分かれて模擬授業を行う）  
グループごとに、2名が授業を行う。1名20分の授業 1講義の授業で2名実施する。  
授業のねらいを明確にし、特定の課題をしばらくながら模擬授業を行う。  
それぞれのグループで、2名の授業後、授業参観者による合評会を行い、授業評価を行う。
2. 授業のねらいや各グループの課題内容から、指導法を検証する

これまで学んできたさまざまな授業技術や指導案の作成などの考察を通して、望ましい授業のあり方を再確認しながら、常に授業改善に取り組む積極的な姿勢を育てていく。

模擬授業時およびその授業後の合評会では指導案を一緒に作成した者は、同じグループとする。

第9回講義は、可能な限り、第8回と違うグループに所属する。

司会者——1名

事前に「授業のねらい」や「グループの課題」を把握し、進行の準備をする。

問題点を明らかにし、改善の為の指導法を検証していく。今後の授業のあり方に繋がるように議事を進行する。

記録者——1名

課題や問題提起を明らかにし、個々の学生の授業改善の為の合評会である視点から研修内容を的確に捉えて、まとめる。

## 第10・11・12回 学校現場におけるインターンシップ

学習指導や生徒指導の教育理論を学校現場でどう生かしていくか、教育実習の経験を踏まえ、4年間、教職課程を学び、体験してきたことを学校現場でいかに実践していくべきか、インターンシップでの学びを通して、実践的な指導力の基礎を培っていく。

### 1. 実施に向けての基本的な考え

教育実習結果を適切に自己評価し、その反省や課題を整理し、インターンシップに臨むことが大切である。教壇に立って授業を行うなど、直接生徒の指導に当たることによって、その体験からより、教師の基礎的な指導力を培うことが期待出来る。しかし、3日間のインターンシップは、観察・参加・実習の期間に於ける段階的、系統的な指導を受け、生徒と徐々に触れ合いを深めていきながら教育活動に取り組むことが出来る3週間の教育実習とは違うことを理解していかなければならない。

受け入れ校の現状やインターンシップ参加学生の指導に要する受け入れ校の先生方の負担も考えなければならない。

指導の未熟な実習生が、直接生徒の指導に当たることは、中学生の大切な時期に受け入れ校に迷惑を掛けることにもなる。これらのことから可能な範囲でのインターンシップを各中学校にお願いすることにし、その基本的な内容はつぎの通りである。

### 2. インターンシップ内容

#### ① 授業参観

教育実習で指導を受けたことや自己評価の内容を基に観点を定めて授業を参観する。

#### ② 教材作成（学習プリント・授業用資料作成など）

参観の授業の教材づくりを体験する。

#### ③ 集団指導と個別指導

- 授業の進め方を観察し、また指導の教師への手助けやT・Tを通じて学級全体の学力向上に向けての指導のあり方を学ぶ
- 家庭学習の課題の与え方、点検および個人差に応じた指導のあり方を指導教師のアシスタント役として体験する。

#### ④ 学級経営（指導）

- 学級活動での連絡事項の伝え方や指導法を、教育実習を振り返り、望ましい指導のあり方を確認する。
- 掃除等生徒と行動を共にしながら、生徒の接し方や生徒理解の仕方を学ぶ。
- 教室美化、教室・廊下の掲示等、校内美化や学習環境に関心を持つ。

教育実習では、これらのことを意識して、余裕を持って体験し、学ぶことが出来なかった学生が多く見られたからである。

#### 3. インターンシップ実施の取り組みと内容

① 恵庭市教育委員会、恵庭市内校長会の了解と各学校担当教員連絡会議での実施内容の説明

② 実施回数および時間

3回（連続3日間） 時間 8：00～16：00

シラバスの講義 10回～12回の3週間で受け入れ校の都合の良い3日間実施する。

③ 授業担当教員は、受け入れ校を訪問する。

④ 実施後の提出物

出勤簿、インターンシップ実施計画書、感想と今後の課題（レポート）、

#### 第13回・14回 学習・体験発表会

発表会は、4年生の学生自身のまとめの意味もあるが、教職の学習や活動に、参考にして欲しいことから、教職を履修している1, 2, 3年も参加して実施した。発表会前日、リハーサルを行い、発表会に備えた。発表会当日は、13回、14回の講義時間として行った。

各自今迄、学び、体験した中から特に強調したいことをまとめて発表する。

一人10分間のパワーポイントによる発表である。

13名の発表者の中には、教職の道以外に進む学生もいる。教職課程を学んだ者として、4年間学び、体験してきたことを、それぞれの道で、何らかの形で生かして欲しいと願っている。4年生の教職を学んできた思いや意義を1, 2, 3年にも知って欲しいと考え、全員の発表後、それぞれの進路に結びつけた今後の決意を発表者全員が、一人2分間、最後に述べた。

最後の2分間のスピーチ内容

学生A「教師を目指して、今後の取り組み」

B「将来の教職を視野に入れて今後の課題」

C「教職を目指していく為の今後の取り組み」

D「教職課程で学んできたことを接客業でどう生かすか」

E「高等学校教師として学んできたことを学校現場で、どう生かしていくか」

F「将来教職を視野に入れているが、学習塾講師として、どう取り組んでいくか」

G「海外の日本人学校で、教職で学んできたことをどう生かしていくか」

H「教職課程を学んだことをどう町職員として生かしていくか」

I「教職課程で学んだことを自己の職業で、どう生かしていくか」

J「教職課程で学んだこととスポーツの関係について」

K「教職課程で学んだことを接客業でどう生かしていくか」

L「中学校教師として、どのような教師を目指すか」

M「教職課程で学んだことを養護施設で、どう子ども達に接していくか」

## 第15回 まとめとポートフォリオ

教職課程を学んだ意義、そしてそれぞれの課題に向けて、仲間と共に取り組んできたことを振り返りながら、今後に対する決意が述べられた。どの学生のスピーチも、自分らしく個性的な内容であった。

授業担当教員から「教職を学んだことへの誇りを持って、将来に向かって力強く進んで欲しい」との激励の言葉で終わる。

その後、「教職実践演習」の学びのまとめとして、学生自身で作成するポートフォリオの最後の編集の確認、印刷作業に取り組む。

### 5.4 教職実践演習評価内容

- ① 講義に於ける討議の参加意欲と発言内容 (10点)
- ② 教育実習後の教職に向けての自己の現状と課題 (レポート) (10点)
- ③ 特定のテーマについての3分間スピーチ (10点)
- ④ 事前学習レポート (20点)
- ⑤ インターンシップ実施計画書 (15点)
- ⑥ インターンシップ感想文 (10点)
- ⑦ 学習・体験報告会 (25点)

## 6. まとめと今後の課題

平成25年度卒業の教職課程履修者の中には、中学校教員、私立高等学校教員の他に、採用試験合格を目指し、期限付き採用教員として、教壇に立っている卒業生がいる。

学校関係以外では、民間企業就職者、出身地での地方公務員、海外の日本人学校教員を志す者、教員免許を生かして、養護施設の指導員になっている者もいる。民間企業就職の卒業生の中には、社会人として、人間としての幅を広げてから、何年か後に、教員を目指したいと心に秘めている者もいる。

卒業後の進む進路は、さまざまであり、教員免許所有が、将来の職業に結びつかない学生もいることは事実である。

教職を継続してきた学生に共通していることは、教職課程の科目を学ぶことに、教員免許だけ取得すれば良いとの安易な考えでなく、学びを積み重ねることによって、教師の基礎的な資質・能力の向上を目指す意欲や姿勢を持って取り組んできたことは、事実である。

その学びへの姿勢は、教職課程最後の「教職実践演習」に、十分見ることが出来た。

卒論、就職活動および自己の生計を立てる為のアルバイト等多忙な中で学生は、その時々テーマや学習内容に前向きに取り組むことによって、初年度の本学外国語学部「教職実践演習」のねらいを達成することが出来たと考える。この学習の取り組みと成果は、学生の手によって教職実践演習報告集「2013ポートフォリオ」としてまとめることが出来た。

「教職実践演習」実施の初年度で、恵庭市内中学校でのインターンシップを実施することが出来たことは、日頃から恵庭市教育委員会および市内中学校が、教職を目指す本学の学生の学外での学習活

動に対し、理解と協力があつたからである。

今後、授業内容を見直し、改善への取り組みを継続し、4年間の教職課程関係科目で学んできた知識や実習での体験を基にしたより良い本学外国語学部の「教職実践演習」の授業を展開していきたい。

今後の課題は、4年間の教職科目のまとめとして、教職を目指す者としての力量を高める指導内容と指導法の改善に取り組むことである。

科目「教職実践演習」授業の充実は、本学外国語学部教職課程全体の教育内容の充実にも繋がると考えるからである。

## **How the New Course "Kyoiku Jissen Enshu" in the Foreign Language Faculty is Proceeding**

EBIKO Tadayuki

**Abstract:** Students can get a high school teacher's license of Japanese, English, or Chinese. The aims of the new course Kyoiku Jissen Enshu are to enhance the talent and ability necessary for student teachers to become teaching professionals, and to solve the problems that come up during practice teaching in order to start their teaching careers more smoothly. The course description includes discussions among students, report-making, mock lessons, and internships at local junior high schools, all of which give practical skills necessary to develop teachers' talents and abilities. This report will present the contents and procedures of "Kyoiku Jissen Enshu": the students' learning experience activities outside school, how students keep a record of their activities in this course, and a summary of practice teaching activities.